

広島市歯科医師会だより

Hiroshima City Dental Association

12月号

No.188 (R4.12.10)



目次

叙勲 石井みどり氏、旭日重光章を受く	1 ページ
行事報告	
令和4年度「8020」いい歯の表彰式	1 ページ
令和4年度 広島市保育園及び認定こども園保健功労者表彰式	1 ページ
令和4年度 学校歯科医協議会	2 ページ
支部だより	
中区支部	2 ページ
東区支部	3 ページ
南区支部	5 ページ
西区支部	7 ページ
ちよっとイイ話	
休日診療保険請求における留意事項について(総務部)	8 ページ
トレーニング用マウスピース(学術部)	8 ページ
広島市歯科医師会会員紹介(厚生部)	9 ページ
低ホスファターゼ症について(地域歯科保健部)	10 ページ
会員ひろば	
新入会員紹介	11 ページ
各部からの報告	
広島市医療安全推進協議会よりーこんな医療トラブルが起こっていますー(総務部)	12 ページ
令和4年度 全国学校保健・安全研究大会(Web参加)(地域歯科保健部)	12 ページ
今月の知っておきたいこと(広報部)	13 ページ
FMちゅーピー(広報部)	14 ページ
YouTube(広報部)	15 ページ
G7 広島サミット 2023.5.19~21 開催	15 ページ
LINE 公式アカウント 友達募集	15 ページ
会長コラム『柔しく剛く』 国民・県民に信頼される品位と威厳のある歯科医師会	16 ページ
新型コロナウイルス感染症対策、本会のこれまでの取り組み	17 ページ
11 月定例理事会報告	18 ページ

叙勲 石井みどり氏、旭日重光章を受く

栄えあるご受章、誠にありがとうございます。

石井みどり氏(広島市)は、2期(12年)に亘り参議院議員として自民党女性局長、参議院厚生労働委員長、参議院消費者問題特別委員長、参議院地方・消費者問題特別委員長、参議院決算委員長などの要職を歴任され、国政に大きく寄与貢献された功績により、秋の叙勲において議案審議功労者として栄えある旭日重光章を受章されました。

行事報告

令和4年度 「8020」いい歯の表彰式

日時：11月7日(月)午後2時

場所：広島市役所本庁舎 10階「市長公室」

標記の表彰式が、広島市8020運動・歯周病予防推進協議会(本会、安佐歯会、佐伯歯会、安芸歯会、広島市)の主催で松井市長臨席のもと開催された。受賞者は男性407名、女性585名の計992名(本会管内331名)で、最高齢は104歳であった。この表彰式は、例年広島市役所2階講堂にて多くの受賞者が参加して開催されるが、昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルス感染症の影響で縮小開催となり、各地区から4名の代表者が出席し、市長公室にて開催された。

初めに、熊谷宏協議会会長より「健康寿命の延伸にはお口の健康がかかせず、受賞者の方々には自身の経験をもとにお口の健康の大切さを広めていただくことをお願いし、コロナ禍にあっても安心して歯科健診を受けていただきたい」と挨拶があった。

続いて、松井一寛広島市長の挨拶では、「口は健康の入り口であり、8020を達成するためには若いころから定期的な歯科健診が必要である。ぜひ身近な方に歯科健診・受診の大切さを伝えて広めていただきたい。お口の健康を保ちながら適度な運動もして健康を維持していただきたい」と話があった。表彰式では、各地区の代表者4名の参加者

に表彰状と記念品が贈られた。

その後、母谷龍典広島市議会副議長から来賓祝辞があり、授賞式を終了した。

受賞者からは、「定年までは会社の病院で、その後は行きつけの歯医者で歯石を除去しメンテナンスをしてもらっている。食事はよく噛んで食べ、毎食後忘れずに歯茎のマッサージも含めて歯を磨いている。歯を大切にしてきたおかげで今日まで健康に過ごすことができた。これからもずっと継続して歯を大事にしていこうと思う」と言葉があった。



熊谷会長の挨拶

令和4年度 広島市保育園及び認定こども園保健功労者表彰式

日時：11月24日(木)午後4時

場所：広島市役所本庁舎 10階「市長公室」

表記表彰式が11月24日、広島市役所市長公室において実施された。本会から、瓜生賢氏が功労表彰の栄を受けて表彰式に出席し、来賓として熊谷宏会長が参列した。表彰式では松井一寛広島市長から直接表彰状と盾が授与さ

れ、瓜生氏が「今後もこの表彰を機に、より一層こどもたちの健康に資することができるよう努力してまいりたい」と感想を述べた。この度の表彰を本会としても心よりお慶び申し上げる次第である。



表彰式の参加者

令和4年度 学校歯科医協議会

日時：11月24日(木)午後7時

場所：県歯会館 2階「ハーモニーホール」

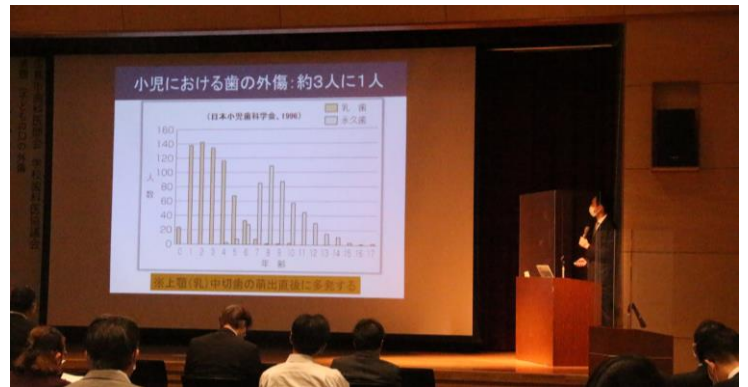
標記の会が濱岡代枝地域歯科保健部副委員長の司会のもと開催された。

熊谷宏会長の挨拶に続き、学校歯科医・保育園嘱託歯科医を退任する豊田眞一氏(井口台小学校)、鎌田一道氏(舟入小学校)、石嶋誠司氏(江波第二保育園)、竹田芳弘氏(井口保育園)が紹介された。次に、新たに就任する中田穰氏(井口台小学校)、光山素夫氏(舟入小学校)、長谷川聡氏(江波第二保育園)、堀健太郎氏(井口保育園)が紹介された。

続いて、「子どもの口の外傷～シンプルでベストな対処法をめざして」と題して、野村良太広島大学大学院医科学研究科小児歯科学教授による講演が行われた。乳歯および永久歯の外傷の種類やそれぞれの対応について、様々な事例を通じ詳細に説明いただいた。その中で、エックス線診査の重要性や、後継永久歯に後遺症が現れる可能性および長期に渡る経過観察の必要性についてもお話いただいた。また、低ホスファターゼ症についても講演いただき、希少

疾患ではあるものの、疑われる症例に遭遇した場合は医科領域の機関とスムーズに連携をとることが重要であるとのことであった。

講演終了後、瓜生賢副会長の閉会の辞により盛況のうちに閉会した。本協議会には、歯科医師、歯科衛生士、スタッフだけでなく、学校教職員、保育園職員にも出席していただいております。子どもの口腔内に対する関心の高さがうかがわれた。



講演の様子

支部だより

中区支部

令和4年度 中区支部秋季懇親会

日時：11月8日(火)午後7時30分

場所：45(キャラントサンク)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止されていた標記の会が、各自感染症対策に努めた上で3年ぶ

りに開催された。

香川次郎副支部長の司会進行の下、波田佳範支部長の開

会挨拶、関野憲三顧問の乾杯により開宴となった。各テーブルでは和気藹々とした雰囲気です。3年ぶりの開催を喜び、親睦を深め合った。会の途中では、令和2年入会の吉岡英将氏、令和3年入会の有田竜二氏、柄慎太郎氏、令和4年入会の永井亮氏の自己紹介と挨拶が行われた。

終始和やかな雰囲気で時間は過ぎたが、宴もたけなわとなり石嶋誠司監事の挨拶にて閉会となった。

なお、本懇親会にはソフトボールチームのメンバーと令和2年以降に入会した会員を主体とした20名が参加した。



(左) 懇親会の参加者 (右) 自己紹介の様子

第17回 吉島圏域多職種連携会議

日時 11月18日(金)午後7時

場所：中区地域福祉センター(大手町平和ビル)

標記の会が開催された。今回は、コロナ禍ではあったが、実に3年ぶりの対面形式での開催となり、懐かしく思える多職種の方々との再会を、果たすことができた。

橋本義政中区地域保健対策協議会理事の挨拶にて開会し、田丸卓弥田丸整形外科院長による本会議の趣旨説明があった。また、講師には大井裕子聖ヨハネ会桜町病院在宅診療部長を迎え、「対話から始める人生会議～現状確認ツール「IMADOKO」を用いて実際に体験しよう～」という講演が行われた。

内容は「ACP(人生会議)」を中心としたもので、以前は認知症が中心でありましたが、今回は現状でのがん患者の看取りのタイミングを確認できる、「現状確認ツールIMADOKO」について詳しく語られた。この「現状確認ツールIMADOKO」にて、患者の状態における、必要な治療内容、ケア内容が認識できるが、認知症のがん患者に対しては対応が異なることが示された。また、本講演ではステ

5階「大会議室」

ージごとによって行われるべき歯科診療の内容にも触れられ、大変参考になった。

最後に、檜川史秋中区厚生部長より閉会の挨拶が行われ、閉会となった。

なおこの会議には、中区支部より波田佳範支部長、小松大造氏、辰本将哉氏が出務した。



右から、田丸卓弥田丸整形外科院長、大井裕子聖ヨハネ会桜町病院在宅診療部長、中区支部会員

東区支部

令和4年度 東区4包括医療と介護・地域の多職種連携会議(ACPについて)

日時：10月28日(金)午後7時

場所：東区総合福祉センター 3階「大会議室」

標記の会が開催され、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・

介護支援専門員・理学療法士・介護職・包括担当者・行政

担当者、地域の民生委員等が約 70 名参加した。岡村里美
広島市東区地域支えあい課地域支援担当課長による挨拶
から始まり、「ACP(人生会議)の普及啓発についての提言」
と題し、遠藤泰子広島県看護協会訪問看護ステーション
「ひろしま」所長・東区 ACP 普及推進委員による講義が
行われた。ACP 人生会議とは何かから始まり、ACP 普及
推進のために地域で活躍されている方や専門職それぞれ
に伝えたい内容など、わかりやすく説明された。その後、
「もしバナカード」を用いて、4 人 1 グループでゲームを
行った。自分自身が余命半年を宣告されたという設定で、

色々なカードの中から自分が大切と思うカードを手元に
残しながら最後に 3 枚を選択、その選択理由について語
るというゲームであった。参加者それぞれ個性的なカード
の選択となり、自分の思いを見つめ直す機会となったと同
時に、理由を語り聞くことによりお互いへの理解が深ま
ったように感じた。専門職からは「もしバナゲーム」を通
して雑談をすることにより、ACP について否定的な方への
アプローチがしやすくなるとの意見があった。熱心な雰囲気
の中、ACP について積極的に活動されている住吉秀隆
東区医師会副会長の閉会の辞にて閉会となった。



会議の様子

救急蘇生講習会

日時：11 月 22 日(火)午後 7 時

場所：JR 広島病院 3 階「大会議室」

標記の会が、岡本有三広島市医師会副会長(JR 広島病院
診療部長)による司会進行にて開催され、20 名程度の東区
医師・歯科医師が参加した。

「一次救命処置(BLS)ー楽しく学びましょうー事業
場における救急蘇生～」と題し、寺川宏樹広島市東区医師
会災害・救急医療委員会委員(JR 広島病院循環器内科主任
部長)により救急蘇生に関する座学と実技実習があった。
感染予防の観点から、心肺蘇生トレーニングキット「あ
っぱくんライト」がそれぞれに用意されており、それを使用
しての BLS、救急蘇生の実習を受講者全員で声に出し手
順を復唱しながら行った。胸骨圧迫は深さ約 5 cm を 1 分
間に 100~120 回の速さで圧迫し続けることは模型でも
かなり大変であることが分かった。

目の前で体調が急変した人に遭遇した時は、周りに指示
(119 番通報する人と AED を持ってくる人を個別に指名
すると混乱しにくい)を出しながら適切に CPR を行う必要
がある。自分で通報した場合には、スマホをスピーカー
にして通話すると CPR の手を止めずに処置を続けること

ができる。有効な心肺蘇生や除細動が早急に行われなかつ
た場合、1 分除細動が遅れる毎に生存退院率は 10%低下
することから、救急車が到着するまでにかかる平均 10 分
間の一次救命は非常に大切であることが改めてわかった。
衣服を全て脱がすことなくパッドを装着することもできる
ため、女性に対してもためらわず使用してほしいとの説
明があった。最近ではオートショック AED が設置されて
いることもあり、器械の音声をよく聞いて処置中の人の安
全確認をより確実にする必要がある。COVID-19 感染疑
いの場合の要点としては、マスクや手袋等最低限の着用と
ともに、患者さんにマスクをつけたままもしくは口をタ
オルなどで覆う、換気用のマスクを使用する場合にはマス
ク面を両手で密着させるように固定するなどの説明があ
った。

来年こそたくさんの医療従事者が一堂に集まり実習が
できることを祈念して閉会した。東区支部から宮村健一
支部長と前島真紀子副支部長の 2 名が参加した。



講習会の様子

南区支部

令和4年度 南区在宅医療・介護関係者研修会

日時：10月24日(月)午後7時

場所：Web開催

標記の会が Zoom で開催された。今回のテーマは「共有意思決定支援～どう考える？どう動く？」であった。野島秀樹野島内科医院院長の開会挨拶の後、「共有意思決定支援の基礎知識」と題し同氏による講演が行われた。講演では、事例動画を用いて共有意思決定支援とは本人が納得した支援、家族目線ではなく本人の意思(自己決定、価値観)を尊重すること、それにはゆっくり分かり易く説明、時間をかけてコミュニケーションをとる、時間をおいて再度確認するといったプロセスを踏まえて意思決定の3つのモデル①バターンリズム、②インフォームドコンセント、③共有意思決定について説明された。

次に、中原党介護支援専門員が「認知症のケース」安慶田康夫看護師が「在宅看取りのケース」として事例動画により取組紹介をした。

後半では、「多職種で連携して実践するポイント」として南区 ACP 普及推進員による意見交換が行われ、評価表やチェックシートを利用して多職種連携により目標を共有し、役割分担を明確にする事、意思決定というのは人間関係、与えられた環境に依存するというプロセスで決定を考えることが大切だと思ふとし、グループ討論が終了した。

最後に佐藤貴広島市南区医師会副会長の閉会の挨拶により研修会を終了した。

なお、南区支部からは河原利哉支部長、近藤令依氏、伊達弘恵氏、中川誠氏が参加した。



研修会の様子

令和4年度 南区の在宅医療連携を考える研修会

日時：11月9日(水)午後7時

場所：Web開催

標記の会が、Webにて半田徹南区医師会会長の挨拶の後開催された。

本年度は、地域在宅医療連携についての発表が2題行われた。

最初に、南区在宅医療相談支援窓口病院であるヒロシマ平松病院の取り組みについて、松村京子社会福祉士から「経済的理由で退院先が限られた重介護の患者を退院支援した症例」の発表が行われた。

次に、特別講演として東京都板橋区を中心に在宅診療を行っている、小野寺志真やまと診療所院長より、演題「その人らしい生活を最期まで地域で守る」で在宅医療と急性期病院や地域包括ケア病棟をメインにした「おうちにかえろう病院」と協働で行っている地域連携についての発表が行われた。

2つの発表ともに、急性期病院と在宅療養について家族が同じ目線で共通認識を持つ必要がある。家族と本人からの細かい情報や意向【病院へ行くこと目的】と【家へ帰るときの状態と家に帰ってからの生活を見据えた療養・リハビリ】との目線が合わないと自宅での介護生活継続は難しくなってくると話された。また、多職間の情報共有により、家族・本人の意思や環境を知ることができ、病院での命を守る医療情報を在宅医療との相互間で共有することで家に帰ることができ、在宅医療を継続することができるのではないかと話された。

その後、野島秀樹南区医師会理事がコメンテーターの方の意見をまとめられ、無事に閉会した。

南区支部からは、河原利哉支部長、小笠原健氏、中川誠氏の3名が参加した。

令和4年度 宇品・似島包括圏域 在宅医療・介護関係者研修会・連絡会

日時：11月10日(木)午後7時

場所：南区役所別館 4階「大会議室」

標記の会が、広島市南区地域保健対策協議会の主催により開催された。

今回の議題は、認知症高齢者や家族が自動車運転免許証の更新・返納の手続き等を行うにあたって、上手くできたこと、困ったことなどの情報交換を行い、かかわり方を多職種で考えてみようというものであった。南区の医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、介護支援専門員、保健師等24名の多職種が参加した。

佐藤貴南区医師会副会長による開会の挨拶の後、大田広島県運転免許センター運転免許課警部補より、「認知症高齢者の自動車運転免許自主返納とその実際」と題して、ミニレクチャーがあった。大田警部補の講義では、高齢運転者による交通事故が多いことが背景となり、高齢者の運転免許更新手続きに認知機能検査が義務付けられるようになったことの説明があった。そして、認知機能検査で「認知症のおそれあり」と判定された人への対策が重要となっていること、その対応を警察がどのように取り組んでいるかについて説明があった。

また、認知症にかかわらず、精神疾患、脳疾患、再発性の失神、てんかん、無自覚性の低血糖、重度の眠気の症状を呈する睡眠障害など、運転や認知機能に不安を感じて免許返納を考えている本人や家族が気軽に相談できる安全運転～全国统一専用相談ダイヤル#8080(シャープ ハレバレ)があることを紹介された。最後に医師の届け出制度の手続きについて説明があった。

その後、グループに分かれて、意見交換を行ったが、運転免許証返納のサポートが上手くできた事例はほとんどなく、聞き入れてもらえないことが理由であった。広島県運転免許センターへの質問はもっぱら、「自動運転機能の自動車が市販されるようになったら運転免許証はどうなるのか」であったが、現時点では、警察も全くわからないとのことだった。質疑応答の後、藤村憲崇南区医師会理事が閉会の挨拶を述べて修了した。

なお、南区支部より、河原利哉支部長、竹田茂氏、中川誠氏が参加した。



研修会の様子

西区支部

令和4年度 第2回 西区支部例会開催

日時：10月26日(水)午後7時30分

場所：西区己斐本町「木松旅館」

コロナ禍で定期的な例会開催が難しくなり、今年度2回目の例会が開催された。佐久間光俊副支部長の司会進行で、まず田中支部長より「新型コロナウイルス感染拡大により、今年度もソフトボール大会を始め、西区民まつり等様々な行事が中止となり残念です。状況を観ながら今後も対面の支部会をできるだけ開催したい」と挨拶があった。

その後、会務報告、続いて協議事項が話し合われた。まず、今年度の年末救急当番医の件は西区支部から補助金が出ることとなり、抽選で30日が楠橋由規氏、輪番制で31日が平尾慶太氏に決まった。

次に忘年会開催については、新型コロナウイルス感染増加傾向にあるので今年度は見送ることとなった。続いて次期支部長、副支部長選定については、輪番で平尾慶太氏と松原博久氏にお願いすることとなった。最後に入会希望の浅川隆司先生の件について西区支部としては了承となった。コロナ禍で参加人数も14名ではあったが、活発な意見交換があり有意義な例会となった。最後に佐久間副支部長による閉会の辞で終了した。

観音地域包括支援センター主催 「介護予防教室」

日時：11月14日(月)午後1時

場所：いきいきプラザ 「4階講堂」

観音地域包括支援センター主催による標記の行事が開催された。

「はじめよう！口腔ケアで介護予防～いつまでも美味しく食べる為に～」と題し、岡田浩幸地域歯科保健部委員が、西区天満小学校区の住民18名に対して講演を行った。

講演に先立ち、石田哲西区医師会理事から西区医師会の活動報告があった。

講演では、フレイルの前段階であるオーラルフレイルを理解し、予防・改善できれば介護予防につながることを示した。実際にオーラルディアドコキネシスや反復唾液嚥下テスト(RSST)、お口の体操などを参加者全員で行い、オーラルフレイルのチェックや予防・改善方法を解説した。また、オーラルフレイルは窒息や誤嚥性肺炎のリスクも高めるため、早期の改善が必要であることを説明した。

オーラルフレイルを予防するためには、一般的な口腔清掃を行う口腔ケアだけでなく、口腔機能の維持・改善のためにかみかみ百歳体操などの日頃からの運動が重要であること、さらにかかりつけ歯科医院をもち定期歯科健診を受けることでお口の中から介護予防を行うことを勧めた。

歯科医院で行う介護予防として、広島市の総合事業である短期集中通所口腔ケアサービスについても説明した。広島市歯科医師会と観音地域包括支援センターから提供されたペコぱんだを使い、舌圧のチェックや舌圧トレーニング体験も実施した。参加者はみな熱心に行って、舌圧の重要性にも興味を示している様子だった。

最後に節目年齢歯科健診や妊婦歯科健診、在宅訪問歯科健診事業など本会の取り組みを紹介し、本講演は盛況のうちに終了した。



(左) 岡田浩幸地域歯科保健部委員の講演の様子 (右) 講演の様子

ちょっとイイ話

耳寄り情報

総務部

休日診療保険請求における留意事項について

現在、休日診療保険請求のレセプトチェックは総務部が主体となって行っております。その際、間違いや気になった点を以下に記載しております。休日診療に出務する際の参考にしていただけたら幸いです。

- ・独自の略称を診療録に記載しているケースが見られました。歯科診療録及び診療報酬明細書に使用できる略称は、歯科点数表の解釈(令和4年4月版 P.926)に記載してあります。一度目を通していただければと思います。
- ・診療録の1号用紙に主訴の記載がないものがありました。1号用紙においては、主訴・口腔内所見・部位・傷病名・開始終了・転帰の記載漏れがないようお願い致します。
- ・他院抜歯後の後出血処置(止血処置・縫合等)を行ったにもかかわらず算定がないものがありました。後出血を起こし簡単(圧迫等)に止血できないものに対する処置を実施した場合は後出血処置(530点)の算定をお願いします。ただし、自院で抜歯後の患者に対しては、抜歯手術と一連の処置として実施した場合は算定できません。

(森本 慎樹)

学術部

トレーニング用マウスピース

新型コロナウイルスが流行し始めてもうすぐ3年になろうとしていますが、この間に人々のライフスタイルは大きく変わってきていると言えます。例えば、飲み会などの減少により仕事終了後の時間に余裕が生まれ、自分時間が増えている傾向にあるようです。その自分時間の使い方の一つとして、フィットネスジムなどでの筋トレが挙げられます。筋トレでウェイトトレーニングを行う人は、クレンチング習癖がある人が多く、顎関節症や咬合痛などを発症するリスクが高くなります。当院でも、筋トレ愛好家は意外に多く、この2年でトレーニング用マウスピースを作りたいという方が増えました。そこで、今回は、トレーニング用マウスピースといわゆるスポーツマウスガードとの製作上の違いや注意点について考えていこうと思います。

マウスガード(MG)とは、外傷から歯及び歯周組織を保護し、口腔外傷を減じることを目的に装着される口腔内弾性装置のことを指します。その中にトレーニング用マウスピースは含まれます。MGは外傷の予防のため、ボクシングやアメリカンフットボールなどのコンタクトスポーツに限定される様に思われますが、米国歯科医師会(ADA)では、ノンコンタクト・スポーツなど多岐にわたるスポーツ競技でのMG装着を推奨しています。砲丸投げやウェイトリフティングなどといったノンコンタクト・スポーツに於けるMG推奨の理由は、外傷防護のためではなく、自傷あるいは障害防止の

ためです。スポーツ選手(特に競技思考の強い選手)は、持てる力の最大あるいは最大以上発揮のために、しばしば歯を食いしばります。こうした食いしばりの瞬間には歯あるいは歯冠修復物が破折したり、舌や頬粘膜を噛み込んで自傷したりすることがあります。また加齢に伴う生理的咬耗に比べ、より早期に、より過度に歯の咬耗・摩耗が生じてくる可能性が高く、これらを防止するために、MGの装着が推奨されていて、それはトレーニング時においても同様であると考えられます。

しかし、実際のトレーニング用マウスピースの設計では、コンタクトスポーツのMGと違い前歯部や唇側の粘膜を覆う必要はありません。唇側の粘膜を覆う様なマウスガードタイプでは、どうしても装着感は悪くなり、話しづらくなってしまいます。その為、スプリントタイプや唇側解放タイプが推奨されています。そして咬合挙上量(厚み)は安静空隙量内に設定します。

次に装着後の不快事項と改善策について考えていきます。不快事項としては、①口を動かすと緩んでくる、落ちてくる②噛み締めると歯が痛い③噛み締めると歯茎が痛い④喋りにくい、呼吸しにくい⑤変な臭いがする⑥口を閉じにくい⑦吐き気がする⑧顎がだるい、疲れる、痛い⑨破損や変形したなどが挙げられます。

不快事項のほとんどが、頬側の床縁の長さや厚みが適切かどうか、咬合挙上量が安静空隙量を超えていないかをチェックすることで改善する事ができます。ただし、⑤の「変な臭いがする」ことはこのチェックでは改善できません。MGはEBA系の材料が使われている事が多く、酸味を感じる事があります。ほとんどのケースでは気にならない事が多いですが、どうしても気になる場合は、マウスガード洗浄液を用いることで防止できます。

トレーニング用マウスピースは、クレンチングによる歯及び歯冠修復物、歯周組織、顎関節の障害予防に対して、有用性が示唆されています。コンタクトスポーツにおけるMGと比べ製作上のトラブルも少ないので、MGを製作したことがなくても容易に作れるのではないかと思います。顎関節症や歯軋り用のマウスピースを作ったことがある先生方も多くいらっしゃると思いますので、保険外治療となりますが、患者さんに勧めてみてはどうでしょうか。

(参考文献)

- ・「実践 スポーツマウスガード」上野俊明 編著 2014年7月10日 医学情報社
- ・「臨床家のためのオーラルアプライアンス入門」杉山義祥 竹内正敏 編著 2012年10月10日 医学情報社

(大塚 道征)

厚生部

厚生部では本会会員紹介ということで、毎回1名の先生に焦点を当て、先生の思いの丈をざっくばらんに語っていただき、記事にさせていただいております。今後、先生方のもとへの取材依頼の折には、何卒ご協力の程よろしくお願いいたします。

今回は昭和63年大阪歯科大学をご卒業され、平成5年より吉島にあるご尊父の歯科医院を継承、平成6年～9年福祉共済部(現厚生部の前身)委員、平成9年～12年同部副委員長、平成15年～29年まで地域歯科保健部委員を歴任、平成21年～23年中区副支部長、平成23年～現在まで中区支部長を6期務められております波田佳範先生のインタビュー記事です。

☆中区支部長

波田先生は今回のインタビューにも二つ返事でOKを出してくださいました。おそらく入会以降、幾度も会の仕事への誘いを承諾してきたからこそ、様々な経験を重ね現在、200人近い会員を束ねられる中区支部長を6期も歴任されているのだと思います。そのように男気のある波田先生ですが中区支部長2期目、副支部長を探した時多くの先生に打診を断られ、途方に暮れていた時期があったそうです。その時救いの手を差し伸べてくれたのが女性歯科医会の先生方だったそうです。特に3期6年副支部長を務めてくださった三次みさと先生には本当に助けられ、女性の先生方のパワフルさに感銘を受けたことから、歯科医師会の仕事も積極的に女性に入ってきてもらうのが会にとって意義があると思われたそうで



三次先生と

す。また、男女問わず若手の先生方には会の仕事を担っていただき、会の楽しみや横の繋がりを作る醍醐味に触れてほしいと言われておりました。

☆歯科医師会ソフトボール

波田先生が歯科医師会行事で思い入れがあるのが、平成5年に歯科医師会に入会以来ほぼ毎年欠かさず30年近く参加している歯科医師会ソフトボール大会です。中区支部では選手の間で『波田祭り』と言われてしていると聞きます。ソフトボールを通して会員同士、横の繋がりを作っていくのに意義深いイベントだと仰っておりました。ご本人曰く決して上手な方ではない競技だそうですが、他のソフトボールチームメイトに言わせると、誰よりも率先して練習に参加し、皆のやりたがらないキャッチャーなども進んで取り組み、新入会員で男女を問わず、全くの素人の先生にも参加しやすい環境を作っていると絶賛されていました。しかしここ数年、年齢も50代後半になり、大会中にケガに見舞われることが多くなったとのこと。数年前も肉離れを起こし、グラウンドから運ばれたときも運んでくれた先生方は波田先生が歯科医師会入会時に面談した先生方だったと嬉しそうに話されていました。しかし、ケガには保険金が入ることから、仲の良い先生には『保険金詐欺』と揶揄されることもあると言われていたとのことでした(笑)。これからも体が許す限り、選手の先生方を支える裏方として頑張りたい、と楽しそうに言われておりました。



ソフトボール大会

☆バードウォッチング

そんな波田先生ですが本来は山男で、その趣味からこうした趣味がバードウォッチングだったそうです。全国津々浦々、北は北海道とまではいかないにしても、富山県の立山、鳥取県米子市、鹿児島県出水市、渡り鳥のメッカである長崎県の対馬など全国に足を運び、大陸から飛来してきた鳥や、その地域に生息している鳥を800mmの超望遠レンズで追うとのことでした。距離でいうとマツダスタジアムのバックスクリーンからホームベース間くらいまで撮影できるということです。そんな大きいレンズを持って山林でカメラを構えていると、近隣住民に不審者扱いされ警察に通報されたことがあったと言います。その他、山林までいかずとも訪問診療で行った近隣の民家の庭に日本には生息していないヤツガシラという鳥と遭遇したことや、広島県北において車で野営をしていた時、早朝外でガサガサ音がすると思ったら、ツキノワグマが近くまで来ていたなどと、鳥の話だけではなくありませんでした。ここでは話さきれませんでしたが、ハト、スズメなどの♂♀の見分け方などは、また波田先生とお会いすることがあれば直接質問してみてください。波田先生、この度は貴重なインタビューありがとうございました。



バードウォッチング

あとがき

最初から最後まで歯科医師会の話とご趣味、ここでは記しませんでしたがご家族の話で盛り上がったインタビューでした。

自分の医院の診療もありながら、これだけの会への貢献と会を通しての地域医療への貢献の大きさに改めて感心させられるばかりでした。

(小島 将督)

～厚生部からのお知らせ～

先生方の趣味に関する記事を募集しております。先生ご自身のこだわりの趣味について、広島市歯科医師会だより1ページ分、ご披露いただけますと幸いです。奮ってご応募ください！

低ホスファターゼ症について

多職種連携の重要性は言われて久しいですが、今回は、近年小児科より医科歯科連携を求められる疾患の1つである、低ホスファターゼ症についてお伝えします。

低ホスファターゼ症(Hypophosphatasia:HPP)は遺伝性の骨系統疾患の1つであり、組織非特異型アルカリホスファターゼ遺伝子の異常によりアルカリホスファターゼ(ALP)の活性が低下する先天性疾患です。ALPは生体内の石灰化の抑制因子であるピロリン酸を分解して無機リン酸を産生することや神経伝達物質の合成にかかわるビタミンB6の代謝にも関わっています。ALPの活性低下によりピロリン酸の蓄積や無機リン酸の産生が低下し、骨の石灰化が障害されることによる病様変化、骨折、骨痛などの骨症状を呈するのがHPPの病態です。

現在、周産期型重症型、周産期良性型、乳児型、小児型、成人型、歯限局型の6つの臨床病型に分類され、重症度や発症年齢には幅があり、無治療では生存が難しい重症の患者さんからほとんど症状のない患者さんまでいます。

日本におけるHPPの重症例の発生頻度は15万出生あたり1人と報告されており、医科領域でのアプローチによって全身状態が落ち着いてから、歯のフォローのために小児歯科専門医へと紹介される症例がほとんどです。一方で、軽症型のHPPのうち周産期以降で診断される乳児型、小児型や歯限局型では、乳歯の早期脱落や動揺が最初の症状であることが多く、歯科医師の気づきで医科領域に紹介して診断に繋がる症例もみられます。

初回の乳歯の脱落年齢は平均1.7歳とされ、4歳までに乳歯早期脱落をおこすとされます。歯の脱落はセメント質形成不全に起因すると考えられており、歯根が吸収されずに残ったまま、乳歯が脱落するのが特徴です。歯の早期脱落の部位としては乳前歯部の報告がほとんどで、1歯のみの脱落症例から多数歯にわたり脱落する症例まで多様性があります。重症型のHPPでは、エナメル質形成不全や歯の萌出遅延を認める場合もあります。X線検査においては、歯槽骨の減少や歯髓腔の拡大を認めたり、永久歯の動揺性や早期脱落も報告されています。

管理としては歯周状態の管理が中心で、口腔衛生指導と歯周治療により、動揺歯であっても、永久歯に交換される時期まで乳歯を可及的に温存、乳歯早期脱落に対しては、審美性の回復、発音機能の獲得、温存乳歯への咬合圧の低下などを目的として小児義歯の装着をします。現在、HPP患児に対する小児義歯は保険適用されます。

HPPには長らく疾患特異的な治療がありませんでしたが、2015年にアスホターゼアルファによる酵素補充療法の登場で骨症状の改善をはじめとして患者さんの生命予後やQOLに影響を与えることが報告されており、生存している患者さんの数が増加すると考えられます。また、診断当初は歯限局型とされていても、成長とともに全身症状が出現する症例の報告がなされています。このことから、**歯科領域においての1歳6か月、3歳児健診での歯科医師の気づきが、医科より期待されています。**

(濱岡 代枝)

※同封のアレクシオンファーマの資料をご覧ください。



アレクシオンファーマ公開資料

会員ひろば

新入会員紹介



永井亮

広島市歯科医師会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、広島市歯科医師会に入会させていただきました永井亮と申します。

私は広島大学を卒業後、呉市の歯科医院で勤務医として働いておりました。開業場所を探していたところ、中区富士見町の村上歯科医院が閉院されるというお話をいただき、そのあとを受けて「RYO DENTAL CLINIC」として11月7日に新規開業させていただきました。微力ではありますが、地域医療に貢献できるよう頑張ってお参りたいと思います。

まだまだ未熟で、先生方にはご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

各部からの報告

総務部

広島市医療安全推進協議会より —こんな医療トラブルが起きています—

広島市医療安全支援センターに寄せられる苦情・相談の現状について具体的相談事例を報告します。なお、個人情報保護の観点から、相談者の個人特定が行われないように、相談内容に関しては、若干の修正を加えております。

事例1：休診時の治療継続について

通院していた歯科医院が(医師の体調不良のため、急に)休診となった。他院で治療を受けようとしたが、以前の治療内容の情報が手に入らず、治療継続困難となり支障がでている。

(センターの対応)

今後の治療については歯科医師会に相談することを促した。

(コメント)

こういった事情で休診となったのかはわかりませんが、院長の体調不良等でやむを得ず休診とする場合、治療途中の患者さんについては事情を説明し、今後の対応について指示するようにしましょう。

事例2：治療費について

毎月スクーリング等で来院しているが、先月より費用負担が高いのはなぜか？

(センターの対応)

4月から保険算定の変更があったことを伝えたと、患者本人も院内掲示物に表示されていたことを自覚されていた。

(コメント)

院内掲示物に加えて、保険算定が変更されたタイミングで診療時あるいは受付で患者さんに一言口頭でお伝えするなどの対応を心がけましょう。



地域歯科保健部

令和4年度 全国学校保健・安全研究大会(Web参加)

日時：11月10日(木)午後1時

11月11日(金)午前9時30分

場所：盛岡市民文化ホール(マリオス内)及びいわて県民情報交流センター(アイーナ)

標記の会が「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進～多様化する健康課題の解決に向けて主体的に取り組む子供の育成～」を主題としてハイブリッド形式で2日間にわたり開催された。

10日(木)は開会式および表彰式に続いて記念講演が行われ、富永良喜兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科特任教授にお話いただいた。テーマは「災害などで傷ついた

子供の回復支援と心の健康教育」であり、中でもコロナ禍の子供のストレスに関する対応については、膨大なアンケートデータに基づいた具体的な対策が詳細に説明され、大変に興味深い内容であった。

11日(金)は課題別研究協議会が行われ、以下10課題に分かれてそれぞれ協議を行った。

第1課題(学校経営と保健組織活動)：心豊かにたくましく生きる力を育むための特色ある学校経営と組織活動の進め方

第2課題(保健管理)：生涯を通じて健康の保持増進を目指す学校、家庭及び地域との連携を図った保健管理の進め方

第3課題(心の健康)：豊かな人間性と社会性を育み、心の健康の保持増進を目指す教育の進め方

第4課題(現代的健康課題)：多様化する現代的健康課題に適切に対応するための保健活動の進め方

第5課題(歯・口の健康づくり)：生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方

第6課題(学校環境衛生)：快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方

第7課題（喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育）：安全で豊かな社会と健康を守り育てるための喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方

第8課題（学校事故防止対策）：事件や事故、災害を未然に防ぐ事前の危機管理や発生時の適切な対応について

第9課題（教科等における安全教育）：発達段階に応じた効果的な安全教育について

第10課題（関係機関等との連携による安全の体制整備）：学校・家庭・地域が連携した効果的な安全体制整備の在り方と通学路における安全確保の方策について

参加した第1課題および第5課題について、健康教育を中核とした学校経営の推進についての具体的な取組や、歯・口の健康づくりのため自己管理能力を伸ばすための活動についてなどが発表・報告され、活発な議論が交わされた。以上のプログラムを経て、盛況の内に大会は終了した。

コロナ禍による社会環境や生活環境の急激な変化は、子供の心身の健康にも大きな影響を与えており、現在も様々

な課題を生じさせている。出口の見えない状況ではあるが、引き続き学校・家庭・地域が一体となり、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を推進していく必要があると強く感じた。

なお、本会からは石田一輝理事(学校保健担当)がオンラインで参加した。

広 報 部

記事の詳細確認は自己責任にてリンク先でお願いします。

最新記事はホームページにてご覧ください。各記事のQRコードをスマートフォン等で読み取っていただければ、該当記事のページにアクセスできます。(リンク切れはご容赦願います。)

今月の知っておきたいこと

▼三師届・業務従事者届の提出は2023年1月まで 厚労省

Whitecross (2022年11月17日)

<https://www.whitecross.co.jp/articles/view/2505>

厚生労働省は11月2日、医療従事者による2年に一度の届出(三師届・業務従事者届)について、今年度は届出年度であることと、オンライン届出が可能になることを発表した。法律により、12月31日時点における業務従事状況等について、医師・歯科医師・薬剤師は三師届を、歯科衛生士・歯科技工士などは業務従事者届を、2年に一度厚生労働大臣や都道府県知事へ届け出ることが義務付けられている。今年度は三師届・業務従事者届の届出年度になるため、2023年1月16日までに届出票を提出しなければならない。



▼脳の老化を止めたければお口をきれいに！「歯周病」が認知症リスクを高めていた

mi-mollet (2022年11月16日)

<https://mi-mollet.com/articles/-/39251>

実は、口内の健康をしっかりと維持しておけば、アルツハイマー型認知症になるリスクが大きく下がるからです。そのメ



ニュースピックアップ

▼コロナワクチン、自己負担に＝財務省が検討要求—財政審

時事メディカル 2022年11月7日

<https://medical.jiji.com/news/54833>

財政制度等審議会(財務相の諮問機関)は7日の分科会で、社会保障費の抑制策を議論した。現在は全額国費負担



カニズムを詳しく説明しているのが、認知症の専門医として20万人以上の認知症患者を診てきた長谷川嘉哉さんの著書『認知症専門医が教える! 脳の老化を止めたければ 歯を守りなさい!』です。

▼歯と口で気になること、若い世代は「見た目」かむ力の低下は全身の衰えを加速させる要因に

Yahoo!ニュース (2022年11月17日)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e833cbd2a851ef9d5806f1c7e4ed75a10d6085d3>

公益社団法人日本歯科医師会(東京都千代田区)は、全国の15~79歳の男女1万人を対象に8月下旬実施した「歯科医療に関する一般生活者意識調査」の結果を、このほど公表した。2005年からほぼ隔年で行っており、今回で9回目。まず、歯や口で気になることを複数回答で尋ねたところ、「歯と歯の間にもものが挟まる」が37.2%と最も多く、「歯の色」30.6%、「口臭」と「歯並び」がともに21.8%と続いた。年代別では、10代と20代は「歯の色」や「歯並び」などの見た目、40代以上は「歯と歯の間にもものが挟まる」ことに悩みを持っていた。



となっている新型コロナウイルスワクチンの接種について、財務省は、重症化率などの動向を見極めた上で、季節性インフルエンザワクチン同様に患者が費用の一部を自己負担する「定期接種」扱いとするよう検討を求めた。

◎季節性インフルエンザなどのワクチンは保険対象外で、公費助成には自治体ごとに差があるため、少なくとも自己負

担を強いられるのは必至です。家計が苦しくて接種をためらう人が相次げば、新たな感染拡大と死者数の増加を招くことが危惧されています。

▼金属アレルギー患者でも使用できる 歯科矯正用ワイヤを開発

MONOist 2022年10月26日

<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2210/26/news013.html>



東北大学は2022年10月12日、歯科の矯正用スチールワイヤに窒化チタン(TiN)をコーティングすることで、金属溶出を抑制することを発見したと発表した。セラミックスのTiNは、生体親和性に優れ、金属アレルギー患者にも対応する矯正用ワイヤに使用できる可能性がある。

◎金属アレルギーを有する人は近年増加傾向にありますので、このニュースは朗報ですね。更なる改良を進めて、商品化に期待しましょう。

▼がん免疫治療薬の弱点克服へ…高齢者にも効きやすくする物質、本庶さんから発見

yomiDr. 2022年10月28日

https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20221027-OYT1T50249/?catname=news-kaisetsu_news



高齢者では効果が出にくいがん免疫治療薬の弱点を克

服する候補物質を見つけたと、京都大の本庶佑(ほんじょたく)特別教授らのチームが発表した。老化を遅らせる働きを持つ生体物質「スペルミジン」で、高齢のマウスに投与すると免疫機能が回復し、薬が効くようになったという。論文が28日、科学誌サイエンスに掲載される。

◎今回はマウスの実験ですが、人でも同様の効果があればがん治療が大きく前進し、がん免疫治療薬の課題解決に向けた大きな成果とのこと。

▼生活習慣病の一因、「老化細胞」が蓄積する仕組み解明 東大など

毎日新聞 2022年11月3日

<https://mainichi.jp/articles/20221102/k00/00m/040/139000c>



脂肪性肝炎や糖尿病などの生活習慣病を引き起こす一因とされる「老化細胞」が加齢に伴って肝臓などの臓器にたまる仕組みを、マウスやヒトの細胞を使った実験で見つけたと、東京大医科学研究所などのチームが明らかにした。老化細胞を取り除く免疫機能が、特定のたんぱく質の増加により妨げられた結果、蓄積していた。

◎癌の治療薬を投与すると、老化細胞が減少することです。将来的には多くの病気の治療や予防につながるのかもしれない。

FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」



FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」サイマルラジオ

「お口の健康広場デンタルパーク」 広島すまいるパフェ 第1・3水曜日午後0時50分から
12月7日放送分

「歯がしみる原因」

広島市歯科医師会 松岡祐一氏

寒い季節になってくると水道の水が冷たくなり、口に入れた時に歯が染みることはないでしょうか。原因は虫歯や歯周病から、歯ぎしり、歯の磨き方など生活習慣によるものまで多くあります。広島市歯科医師会の歯科医師、松岡祐一さんが話します。

12月21日放送分

「スペシャルニーズ歯科」

広島市歯科医師会 林内優樹氏

スペシャルニーズ歯科という言葉を知っていますか。日本語では「障害者歯科」と訳します。近年ではスペシャルニーズ歯科を実施している歯科医院が増えてきています。一般の歯科と何が違うのか、実際にどういった患者さんをどのような方法で治療するのかなど、スペシャルニーズ歯科について、広島市歯科医師会の歯科医師、林内優樹さんが話します。

【公式】広島市歯科医師会広報 チャンネル

ぜひご視聴ください

チャンネル登録をお願いします。



10月5日放送分

「歯科の訪問診療」

広島市歯科医師会 芥川桂一氏

<https://youtu.be/LhWBpueuwqE>



10月19日放送分

「親知らずは抜くべき？」

広島市歯科医師会 岡崎文彦氏

<https://youtu.be/UwzT9kuyI3M>



G7 広島サミット

2023. 5. 19~21 開催

本会は、広島県全体の総力を結集し「オール広島」でサミットの成功を目指すために設立された「広島サミット県民会議の構成団体」です。

広島サミット県民会議の Facebook にて、G7 広島サミット開催までのカウントダウンが実施されています。

11月7日の投稿に、熊谷会長が登場いたしましたので、ご覧ください！



広島市歯科医師会は会員の皆様に対する情報提供の一助として会員専用のLINE 公式アカウント(非公開)を開設しました。



LINE 公式アカウント 友達募集中！



「@698zzzkc」で検索

このアカウントは非公開のものです。
広島市歯科医師会会員にのみ配信します。会員のみ登録をお願いします。
登録後のウェルカムメッセージに会員氏名を必ず返信してください。

今までの配信内容

11月 9日配信 オードリー・ヘップバーンの『ローマの休日』全編上映 ライブコンサートへのお誘い

新規登録時に 管理者側には登録した方の情報は届きません。必ず「自分の名前」「自分の診療所名」を下段のテキストボックスに入れて送信してください。

さる9月29日の日本歯科医師会定例記者会見で、堀憲郎会長が次期の日歯会長予備選挙に立候補しないとの考えを示されました。

堀会長は、8年前政治資金規正法違反の疑いで元日本歯科医師連盟会長であった高木幹正先生(当時の日歯会長)を始めとする日本歯科医師連盟元幹部が東京地検特捜部に逮捕され、日歯会長も辞任されたことを受け実施された日歯会長予備選挙で、故山科透先生らを破って当選され、4期8年を務められました。

8年前の選挙において堀先生は、選挙の位置づけについて、「日歯連への強制捜査以来、歯科界全体が批判に晒されたことに対して、一定のけじめを明確に内外に示せるかどうかが問われている」とし、「公益社団法人に求められる更に高いコンプライアンスを再確認する議論をするべき」と訴えられ、それが支持されました。

事実、堀会長は就任直後、「役職員倫理規程」、「役職員倫理行動指針」、「役員等懲戒規程」を策定されるなど、国民からの信頼回復に努められました。私はその執行を高く評価しています。

堀会長の勇退を受け、現時点で3名の方が立候補を表明し、記者会見を行っています。会見順に、日本歯科医師連盟会長の高橋英登先生、日本歯科医師会筆頭副会長の柳川忠廣先生、元日本歯科医師会常務理事の小林慶太先生の3名です。

堀会長は記者会見で後継指名はしないと発言されましたが、柳川先生の後援会である廣楠(こう

なん)の会の顧問に就任されていますので、実質的に柳川先生を支持されています。

高橋先生は、日本歯科医師会を「物言う歯科医師会」にし、いままでの経験と人脈を糧に「政治」とも向き合っていく、と主張されています。

柳川先生は、日歯連盟の問題で失墜した歯科界への信頼

回復に取り組んできた堀執行部の継続を基本に、「国民からの信頼こそが歯科医療の評価につながる」と主張されています。

小林先生は、「会が抱える多くの課題を整理し、改革するためのグランドデザインを提示実行することで停滞感の漂う歯科界の甦生を図る」と主張されています。

注目すべきは、日歯連盟常任理事や東京都歯連盟会長など、連盟畑を歴任された高橋先生が、「政治力」「物言う歯科医師会」を訴えられていることに対し、柳川先生が「国民からの信頼」を第一に挙げられ、両者の根源的思想が全く異なっていることです。そういう意味で私は、今回の選挙がこれからの歯科界の行く末を決める分水嶺になると考えています。

4年前の平成30年11月11日にご逝去された、故小松昭紀先生を思い出します。小松先生は、平成18年実施の広島県歯科医師会会長選挙に、「国民・県民に信頼される品位と威厳のある歯科医師会」を掲げられ立候補されました。6名が立候補する中、学閥・地域閥に頼らないと宣言されていた小松先生は一部では泡沫候補扱いでしたが、当時の広島のスアレントマジョリティーは、小松

会長コラム (第41回)

柔しく剛く

国民・県民に信頼される品位と威厳のある歯科医師会

熊谷 宏

先生を次点に引き上げました。

あの当時の広島県歯の会員はすでに、「国民・県民に信頼される」ことが最も重要であることを認識されていたこととなります。

あれから16年、日歯連盟を舞台に2度にわたり国民の信頼を失墜してしまった歴史を踏まえながらも、未だに「政治力」を訴える候補と、「国民の信頼」を第一に訴える候補が争う今日に複雑な思いを持っています。

そんな中、広島県歯科医師会理事会は、柳川忠廣先生を日歯会長に相応しい候補として、推薦を機関決定しました。私は県歯会理事として心から賛成の意を表しました。

山崎健次県歯会長は、今回の選挙について「国民からの信頼回復という目標を会員で共有するのか、それとも時計の針を巻き戻してしまうのか、を決める大切な選挙」との考えを表明されており、11月10日開催の県歯会第9回理事会の会長挨拶で、この件について述べられています。動画を県歯会HP会員専用コンテンツで見ることができますので、是非ご覧いただければと思います。

新型コロナウイルス感染症対策、本会のこれまでの取り組み

(2022年11月)

新型コロナウイルス感染症対策これまでの経緯(2022年11月1日～11月30日)

世界・日本での経過	2022年	広島市歯科医師会での対応
「BA.5」対応ワクチン モデルナも使用承認 11月にも接種開始へ 国内累計感染者数 22,388,285人 世界累計感染者数 627,104,342人	11月1日	
松野官房長官 コロナとインフル同時流行懸念 ワクチン接種促進図る考え示す	11月2日	
製薬会社のファイザーとビオンテック コロナとインフル混合ワクチンの臨床試験開始と発表	11月3日	
	11月4日	会員相談対応抗原検査キット配布
東京大学医科学研究所の河岡義裕特任教授らのグループ 動物実験で新型コロナ「BA.5」の症状は「BA.2」と同等と発表	11月5日	
会計検査院 新型コロナ対策事業で100億円超の不適切支出を指摘	11月7日	
感染症法など改正案 衆院本会議で可決 今国会で成立の見通し	11月8日	
	11月9日	会員相談対応抗原検査キット配布
政府 新型コロナ「第8波」に備え新方針 外出自粛など要請も 国内累計感染者数 22,980,933人 世界累計感染者数 630,387,858人	11月10日	会員相談対応抗原検査キット配布
厚生労働省研究班 オミクロン株「BA.1」対応ワクチン 副反応の分析結果を初公表	11月11日	
長野県「医療非常事態宣言」ひっ迫 深刻な場合 行動制限も	11月14日	
名古屋工業大学 新型コロナ「第8波」AI試算「第7波」ピーク超えも	11月15日	会員相談対応抗原検査キット配布
新型コロナウイルス感染症 新規感染者が10万人超 第8波に備え医療体制強化へ	11月16日	会員相談対応抗原検査キット配布
磯崎官房副長官 “ワクチン同時接種も可能” 早期接種呼びかけ	11月21日	三役会
厚労省専門家会議 塩野義製薬の新型コロナ飲み薬の使用を承認	11月22日	定例理事会 会員相談対応抗原検査キット配布
厚労省 コロナとインフルエンザの同時抗原検査キット一般販売 検討へ	11月23日	
感染症法など改正案 参院厚生労働委で可決 来週にも成立見通し	11月24日	
塩野義製薬が開発したコロナ飲み薬「ゾコーバ」28日から医療機関に本格供給開始へ	11月25日	
みとりケアの高齢者は面会可能にする施設も コロナ禍の制限 模索する動き	11月27日	
厚労相 新型コロナ感染症法上扱い 見直しに向けた議論早期に進めていく考えを示す	11月29日	
釜范日本医師会常任理事 新型コロナの扱い見直し 合意形成し判断を 国内累計感染者数 24,818,666人 世界累計感染者数 638,175,811人	11月30日	会員相談対応抗原検査キット配布

集計元情報：Johns Hopkins 大学、厚生労働省、各自治体

※以前のは前号参照

11月定例理事会報告

「部外報告」

10月26日 令和4年度広島県四師会役員連絡協議会
10月31日 歯科医師国保組合理事会
11月1日 【Web】広島サミット県民会議第2回総会
11月2日 社会保険診療報酬支払基金再審査
11月4日 (県歯)口腔機能発達不全症及び口腔機能低下症への対応の推進検討会議
11月7日 令和4年度「8020」いい歯の表彰式
11月10日 (県歯)会員サポート室会議
11月11日 「元気じゃけんひろしま21(第2次)推進会議」第4回評価部会
11月14日 【書面会議】第45回広島赤十字・原爆病院地域医療支援病院運営委員会
11月17日 広島県国保連合会歯科再審査部会
11月18-22日 広島県国保連合会歯科審査部会
11月22-27日 社会保険診療報酬支払基金審査

(連盟関係)

10月30日 自由民主党広島政経文化セミナー
11月6日 平口ひろしと明日を語る会
11月16日 ゆぎき知事を囲む県政懇談勉強会
11月22日 松井かずみ勉強会

「総務関係」

11月1日 クリスマスパティー演者横山アナとの打合せ・懇親会
11月7日 広島市歯科医師会選挙管理委員会
11月10日 ホワイトクロス社配信WEBセミナー
11月12-13日 理事会旅行
11月16日 総務部忘年会
11月21日 三役会
11月22日 定例理事会

(慶弔関係)

9月3日 中国・四国地区歯科医師会連合会会長表彰 中区支部 石本勝三先生
10月29日 厚生労働大臣表彰
" 中区支部 山崎健次先生
" 日本歯科医師会会長表彰
" 西区支部 久保康治先生
11月3日 叙勲 旭日重光章受章(議案審議功勞)
" 中区支部 石井みどり先生
11月17日 広島市長表彰
" 中区支部 上川克己先生 小松大造先生
11月25日 広島県知事表彰
" 中区支部 大石正臣先生

(入会退会関係)

(県歯理事会関係)

11月10日 (県歯)理事会

(1) 総務部 (森本理事)

10月26日 西区支部会

11月1日 休診レセプト点検
11月2日 社会保険診療報酬支払基金再審査
11月9日 (県歯)保険部常任委員会
11月10日 ホワイトクロス社配信WEBセミナー
11月16日 定例委員会
11月22-27日 社会保険診療報酬支払基金審査

(2) 学術部 (花岡理事)

11月10日 ホワイトクロス社配信WEBセミナー
11月11日 定例委員会

(3) 厚生部 (谷理事)

11月1日 クリスマスパティー演者横山アナとの打合せ・懇親会
11月10日 ホワイトクロス社配信WEBセミナー
11月17日 定例委員会

(4) 地域歯科保健部

11月18日 定例委員会

<地域保健> (若林理事)

10月27日 (県歯)国保連合会歯科健診
" 中区介護認定審査会
10月29日 (県歯)全国がん医科歯科連携DVD講習会
11月10日 中区介護認定審査会
11月16日 (県歯)地域保健部常任委員会
11月17日 中区介護認定審査会
11月19日 (県歯)病院歯科連絡協議会

<地域連携> (藤田理事)

10月27日 西区介護認定審査会
11月7日 令和4年度「8020」いい歯の表彰式
11月10日 中広圏域認知症カフェ講演
" 西区介護認定審査会
" 西区地域ケアマネジメント会議
11月17日 西区介護認定審査会

<学校保健> (石田理事)

10月17日 学校嘱託歯科医への対応
10月27日 保育園嘱託歯科医への対応
11月10日 令和4年度全国学校保健・安全研究大会1日目
11月11日 令和4年度全国学校保健・安全研究大会2日目

(5) 広報部 (水内理事)

11月1日 校正委員会(だより11月号)
11月14日 FMちゅーピー収録
11月17日 【Web】情報調査委員会

FMちゅーピー (放送日)

12月7日 「歯がしみる原因」
広島市歯科医師会 松岡祐一氏
12月21日 「スペシャルニーズ歯科」
広島市歯科医師会 林内優樹氏

(6) 広島市歯科医師会ホームページについて

ホームページアクセス数
一般サイト 訪問者 1,129 (累計 119,621)
ページビュー 17,233 (累計 1,426,562)
会員サイト 訪問者 177 (累計 28,576)
ページビュー 948 (累計 279,210)
広報部 … Talking Heads<最新情報>
掲載件数 102件(10/21~11/20)
LINE 公式アカウント 登録者数
11月18日 120名

(7) 特別委員会(選挙管理委員会)

11月 7日 広島市歯科医師会選挙管理委員会

(8) 救急蘇生委員会

(9) 各部事業計画について

(10) 歯科医療安全相談

11月 7日 相談 「後期高齢者医療被保険者でないことの証明書」の対応について(会員診療所からの相談)

「協議事項」

- (1) 入会について (1名)
西区支部の浅川隆司氏の入会について承認
- (2) 会費について (3名)
終身会員診療状況変更による会費額変更について1名承認。診療形態の変更による会費額変更について2名承認。
- (3) クリスマスパティーについて
参加者数および内容確認、今後の準備事項確認
- (4) 新年互礼会について
内容確認、継続審議
- (5) 休診お知らせプレートについて
内容確認、継続審議
- (6) 年賀状宛先確認について
名簿確認
- (7) その他
12月行事予定確認

「その他」

特になし

会員の皆様へ

広島市歯科医師会だよりに関するご意見やお問い合わせは、各記事に担当部がある場合は、担当部の理事あてにお願いします。それ以外については、広島市歯科医師会事務局ないしは広報部担当理事水内裕之までお寄せ下さい。

広島市歯科医師会事務局 E-Mail: hirosshima@dentalpark.net
広報部担当理事 水内裕之 E-Mail: mizuuchi.shika@gmail.com

広島市歯科医師会ホームページ

<http://www.hiroshima-da.com/>

会員専用ページ

ユーザー名 : Futaba

本会PASS : 2622662

協議会PASS : welfare

投稿記事締め切りは毎月25日です。

ご協力をお願いします。

事務局までメール(上記)投稿

お願いします。

広島市歯科医師会の住所及び連絡先

〒732-0057

広島市東区二葉の里3丁目2番4号

広島市歯科医師会 TEL : 082-262-2662

FAX : 082-262-2668

休日診療専用電話 TEL : 082-262-2672

